

06-4 長野県臨床検査技師会の新型コロナウイルス感染症への取り組み

實原正明（(一社) 長野県臨床検査技師会、飯田市立病院）

キーワード：COVID-19、長臨技、検体採取、PCR 検査

要旨：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）発生後、長野県臨床検査技師会は県民の健康の維持増進に寄与することを目的に臨床検査技師としての役割を積極的に担った。2020年4月15日の地域外来・検査センター設置（厚労省）通達を機に、検体採取への取り組み、感染者の増加を見据えた検査体制の強化、検査精度維持のための研修会および全国に先駆けて遺伝子検査（PCR 検査等）の外部精度管理を実施した。世の中はウィズコロナ時代へと歩みを進めるが、未だ収束とは言い難く今後も注視するとともに、この経験を新興感染症に活かせればと考える。

A. 目的

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）はクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号乗客における感染を発端に瞬く間に全国に拡大した。長野県では2020年2月に最初の感染者が報告され、行政が中心となり検体採取、PCR 検査に対応したが、検査結果が報告されるまで2日間を要し、体制強化の必要性を感じた。

長野県臨床検査技師会（長臨技）は、「長野県民の健康の維持増進に寄与する」ことを定款に掲げ、前年の台風19号災害時に行政との迅速な連携により、被災地における deep venous thrombosis（DVT）検診に携わった経験を踏まえ、COVID-19も同様に県庁、医師会、保健所との連携強化に努めた。この一連の活動の原動力は「今こそ我々の力を発揮するところ」と捉えたことに由縁する。これまでの当会における一連の取り組みについて報告する。

B. 経過

(1) 行政および医師会との連携

2020年4月15日、厚労省から「地域外来・検査センター」設置の通達を機に、4月17日には長野県庁、長野県医師会、長野市保健所を訪問、長臨技の協力体制について面談を行った。面談では、① COVID-19における遺伝子検査体制の構築と実施施設への研修、②退職者等を対象とした動員の要請、③厚労省指定検体採取講習会受講済みの当会会員は、検体採取が実施可能であることを提案する一方、④検査センターで実

施する際の身分保障の明確化から、各施設長への協力要請依頼を要望した。4月30日の長野県医師会会議では全県に地域外来・検査センター設置が決定し、管轄する保健所から正式な協力要請があった。

(2) 県内施設技師長への web 調査

全県医療機関の技師長を対象に4回のweb調査（2020年4・10・12月、2021年4月）を実施した。第1回では遺伝子検査機器の所有状況や、院内検査および検体採取予定など各施設の方針を調査し、機器購入の際の選定基準および補助金の利用など、情報提供が不十分であった施設に対しては個別にコンサルトやアプローチを行った。第2回、3回では検査件数・検体採取件数や人員体制等も含めた実施状況の把握に努めた。その中で遺伝子検査の検査精度を不安視される意見が挙がり、第4回調査で精度管理に特化した調査を行った。これらのアンケート結果についてはHP、文書等で会員および行政へ提供し情報を共有した。

(3) 会員への周知

2020年5月、「COVID-19経過報告と当会の方針」として会員へ配信した。この中では、COVID-19に対する当会の対応内容や検査機器購入の推進、行政等との協議内容の活動報告と今後の方針の詳細を報告し、長臨技としての方向性を示し全会員の協力を仰ぐことに努めた。さらに各施設・会員へ迅速な情報提供を目的に技師会ホームページにバナーを設置した。

(4) 地域外来・検査センター設置と支部の取組み

県内 12 か所に地域外来・検査センターが設置され、検体採取や検査に携わった。

① 北信支部

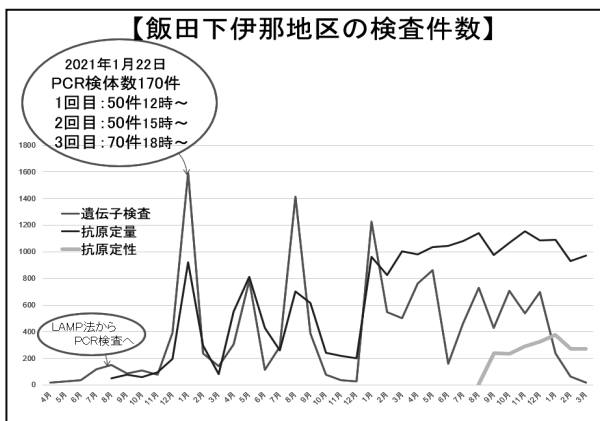
県内では最初に地域外来・検査センターが設置された。北信支部長を中心に長野市保健所と協議を重ね、地域外来・検査センター稼働に向けて体制を構築した。派遣協力施設の選定、鼻咽頭ぬぐい液の採取及び個人感染防護具 (PPE) の着脱実技講習後、2020 年 5 月 11 日長野市医師会 PCR 検査センター稼働した。北信圏域では 3 か所の検査センターに携わった。

② 中信支部

2020 年 7 月、COVID-19 関連講習会と 6 回の検体採取実技講習会を開催し、検査センターでの業務に取り組んだ。また、「保健師専門研修会」では、鼻腔・咽頭拭い液の採取実技研修に携わった。

③ 南信支部 (飯田下伊那地区)

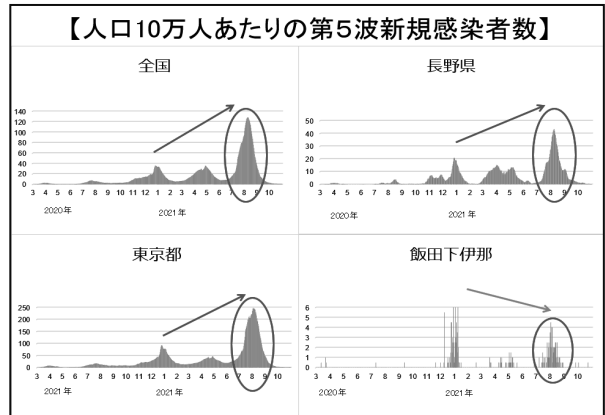
2020 年 5 月 27 日、飯田市地域外来・検査センターが稼働し、検体採取から結果報告までを当地域で完結し即日結果報告を可能とした。これにより、迅速に感染者の入院・自宅療養および接触者追跡調査が行われ、翌日には接触者検査が可能となった (図 1)。



(図 1 : 飯田下伊那地区の各種検査件数)

センター開設から現在に至るまで、検査センター運営会議 (毎週金曜日開催、2023 年 3 月末の休止まで総計 102 回開催) に出席し、時々刻々と噴出する課題等を議論し、解決に向けた取り

組み並びに当圏域全体の対策への反映が成された。また、過去の感染者データを分析し、後の感染動向に役立てた (図 2)。



(図 2 : 飯田下伊那地区新規感染者数の動向)

④ PCR 等検査技術研修会の開催

多くの施設で遺伝子検査が可能となり、精度向上を目的に 2 支部で遺伝子検査における手技や感染対策を中心とした実技研修会を開催した (2020 年 11 月 21 日、2021 年 2 月 27 日)。

⑤ 介護施設における COVID-19 簡易検査

長野県より簡易検査キットが配布されると同時に医師会より研修会の依頼があり、実技を中心とした検査実施方法、感染対策、検体採取の研修会を実施した (2021 年 8 ~ 9 月)。

(5) SARS-CoV-2 遺伝子検査精度管理の実施

SARS-CoV-2 遺伝子検査は多くの測定機器・試薬キットが対応可能となり院内実施施設も増加したことから、どこでも同じ検査結果が得られる証明は必須である。遺伝子検査の外部精度管理はハードルが高く、実施している他県技師会はなかったが、当会では精度管理委員会および信州大学医学部保健学科の協力を得て、2021 年 10 月開催の長野県精度管理調査より開始した。

C. まとめ

長臨技として他団体と協力し取り組んだ COVID-19 への対応について報告した。今回の経験を今後起こり得るであろう新興感染症に活かせればと考える。

D. 利益相反

利益相反なし。